

# 明日にむかって

西日本の豪雨により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧をお祈りいたします。

発行 社会福祉法人陽光会 編集「明日にむかって」編集委員会 発行日 2018年7月27日  
住所 〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03-3956-1068(陽光保育園)  
社会福祉法人陽光会 HP <http://youkou-kai.com>

86号

新人職員が研修を受けた翌日、瞳を輝かせて学んだことを伝えてくれました。その表情から「学ぶ楽しさや喜び」が溢れ出ています。私も新人だった頃、先輩から「この先生の話いいよー」と情報を得るとすぐに研修会に足を運んだことを思い出します。当時はまだ週休2日制ではなかったので、週に1度の休日を休むのは正直「しんどいなー」と思うこともありましたが、講師の話聞きながら、日頃の子どもの姿を思い浮かべ「そっかー、あの子はこんな気持ちでいたのか」「あれは発達した姿だったのか!」など、子どもたちの心の中が少しだけ見えた気が嬉しく思ったものです。保育園では、子どもたちの育つ姿から多くのことを学びます。その成長に出会えるたびに「喜び」があり「学び」があります。その「喜びと学び」を通して、若い保育士さんたちが毎日笑顔で子どもたちに向かえるよう、自分を大切にしながら働き続けられるよう願っています。(H・M)

### 陽光保育園恒例のバザーと共同購入

長い間、ご協力ありがとうございます。そして、これからもよろしくお願ひします。

共同購入は今回をもって終了しました。バザーはこれからも行います。

戦後間もなく青空保育から始まった陽光保育園の歴史とバザーや共同購入は切っても切れない関係があります。園舎の改築資金など、幾多の財政難を救って来ました。近年はバザー実行委員がその任にあたり、この20年間は、園舎の土地代を賄い、昨年度、ようやく完済することができました。それもこれもみなさまのご協力のおかげです。これを機に共同購入は終了することになりましたが、夏のバザーはこれからも、規模を縮小して実施します。ぜひまた足を運んでください。

### すべてが保育のために

陽光保育園のバザーの歴史は50年以上になります。オルガンを買うためのオルガンバザー、園舎改築のためのバザーなど、いつでも職員や父母、後援会の方の「こんな保育園にしたい」「こんな保育がしたい」という想いとともバザーはありました。

昨年度、土地代の20年返済を終えることができ、今年の夏バザーをもって共同購入は終わりをむかえました。共同購入の仕事は業者さんとのやりとり



1965年以來毎年開催されてきた陽光バザー。今も昔も、にぎわいは同じ。写真は1995年、旧園舎で

### バザーの思い出

●焼き鳥の串刺し バザー前日、鶏肉屋で3センチ角に切ってもらった肉と深蒸ネギを、ホールに並べたテーブルに積み上げ、父母・職員で串に刺してゆく作業が夜遅くまでかかり、交流の輪が広がりました。

●刺身こんにやくづくり 夏の後援会の旅行で山梨に行き、そこで食べた刺身こんにやくが美味しかったので、さっそく冬のバザーでづくり、売るとに。青のり、赤とろがらし、黒ごまと、欲張って挑戦しました。大ナベにこんにやく粉を煮詰め、固まってきたらパンを入れる四角い大箱に流し込み、空気を抜くため手のひらで叩きながら平らにし、固まってきたら水に入れて切り分け、最後に大ナベで茹でるという作業が大変でしたが、当時(1980年代)は100万円近くバザー収益をあげるという目標があり、そのくらしの努力は当たり前でした。(卒園保護者 小林昭子)



焼き鳥、お好み焼きは、ずっと陽光バザーの名物だった。写真は1980年代



共同購入の仕分けは手間のかかる作業。大勢で力をあわせて

### 懐かしい顔に出会う日

共同購入はお歳暮・お中元の時期に重要なため、商品を購入する際に購入して下さる方も多かったです。卒園してからも、協力してくれる方も多いため、納品日は久々に懐かしい顔が集まる日でもあります。バザー当日と共同購入納品日を入れると年4回、保育園を支えてくれる人を感じ

共同購入はお歳暮・お中元の時期に重要なため、商品を購入する際に購入して下さる方も多かったです。卒園してからも、協力してくれる方も多いため、納品日は久々に懐かしい顔が集まる日でもあります。バザー当日と共同購入納品日を入れると年4回、保育園を支えてくれる人を感じ

### 陽光バザーへの想い

我が家が陽光バザーへ参加するようになったのは、長女が入園した平成18年からである。当時、保育園は建て替え中のため仮園舎であった。母は次女を出産したばかりで、初めてのバザーは出席できなかった。スタートから、バザー手伝いは父の役割となった。

以後、前日までのクラス準備は、母が出席。当日は、父がバザー手伝い。卒園まで、ほぼ同じように役割を分担していた。それぞれの楽しみは、準備では、先生(保育士)と母同士のおしゃべり。当日は、父がビール片手に先生やバザーに来ている父同士の語り(?)。バザー終了後も、打ち上げへ父と母と子で出席。

あれよあれよというまに子どもは卒園。後援会へ入り、両親でバザー手伝いへ。決して、いやいやではなく、家族で楽しんでた。その魅力はやはり、人と人のつながりだと思う。

子どもたちを日々、元気に成長させてもらい、バザーの手伝いは、保育園へのせめてもの感謝の気持ちと思っている。久しぶりに見るみんなの元気な顔。翌日には、忙しい日々へ戻っていく。最近、家族それぞれが忙しく、当日のバザー手伝いは父のみとなっている。これからも、父同士、バザー手伝いという名目で、ビール片手に楽しい時間を過ごせる場所であることを願う。(卒園保護者 倉科順二)

### 共同購入の楽しみ

保育園に通っていた息子も早17歳。卒園した後も共同購入をどうして続けてこれたのか、それは今まで日大病院の中に陽光保育園とのつながりを持ち続けてきたお母さんたちがたくさんいたからです。子供を持つお母さんたちのネットワークは強いです。そして、そういうちょっとしたつながりが仕事するときにも生かされるのです。陽光はそういう力を育てる場所でした。親同士や先生とのコミュニケーションのなかで、育児に孤独にならずにすんだのも、あの場所があったからです。

子供を見ながらの共同購入の仕分け、先生たちもホントにお疲れさまでした。共同購入で買うものといえばほとんど決まっていた。カリントウにキムチ、昔はキムチの包装も今ほどしっかりしておらず、休憩室の冷蔵庫に入ったキムチの匂いが香ばしくて、廊下まで漂うとよく言われていました(笑)。

日大への搬送、急な坂道をピンクのリヤカーで大変でしたよね。長い間ありがとうございました。感謝です。(卒園保護者 堀之内喜代江)

### 社会福祉法人陽光会◎近況

#### ●陽光保育園●

砂場に出て、タライの中にこれでもかというくらい水を溜めると、思いっきり水面を叩き、跳ね返ってくる水にも笑顔いっぱいの子供たち。砂山に登って「おーい」と両手を上に伸ばしたり、カップに砂を入れたり出したりと、指先もたくさん使って楽しんでいます。大人だけでなく、友だちの姿も見て楽しむ日々が増えていきます。



園庭の砂場で水遊び、砂遊びに夢中の1歳児



#### ●桜台第二保育園●

桜台第二保育園の園庭には、小さいながらも畑があります。今年も年長組が、畑の土づくりをし、じゃがいも、スイカ、とうもろこし、里芋、メロン、かぼちゃの苗を植えました。稲も栽培しています。収穫して保育園のみんなで食べることを楽しみにしています。ひと雨ごとに、スイカやメロン、かぼちゃの蔓がどんどん伸び、花が咲きだしました。天まで届きそうな蔓を見て感動していた子どもたち。もうすぐじゃがいもが収穫できそうです。どんな料理にして食べようか、みなで相談中です。秋には練馬大根も栽培し、調理保育をしたいと思っています。



上: 苗を植える前に土をほぐす 下: 収穫間近のとうもろこし。手前のじゃがいもも間もなく収穫

#### ●北町保育園●

6月14日、プール開きをしました。この日は気温が低かったため水着にはならず、まずホルダーナース(看護師)から「プールに入る時の大切な話」を聞き、それからプールサイドに集まりました。園長が「みんなが安全に楽しく入れるように」とプールの四隅をお清めするのを見守りました。その後19日に晴れ間が出て、初めてプールに入れたときにはみんな大喜びでした。



「今年も楽しく安全にプールで遊べますように」祈りをこめて

#### ●板十小あいキッズ●



色染めした和紙を中庭に張ったロープで乾かす

例年、七夕の季節になると、あいキッズでは子どもたちが和紙を色染めして短冊をつくりまわす。6月中旬、色染めを行いました。初めての色染めに興味津々の1年生。他の学年も大勢の子が集まりました。いろいろな色があるため、少しずつ和紙に色をつけていく子もいれば、大胆に1色だけ染め上げた子も! 1枚1枚個性あふれる短冊が完成。みんなの願いが天まで届きますように……。

ごあんない

■陽光保育園	学習会「新保育所保育指針で保育園はどう変わるか」
日時	9月28日(金) 19時~21時
会場	陽光保育園ホール
講師	近藤幹生先生(白梅学園大学学長)
運動会	10月14日(日) 9時~14時
会場	板橋区立中根橋小学校校庭
●冬のバザー	12月2日(日) 10時~14時
会場	陽光保育園
■北町保育園●運動会	10月6日(土) 9時15分~13時30分
会場	北町保育園園庭
■桜台第二保育園●運動会	10月20日(土) 9時~13時45分
会場	桜台第二保育園園庭
■陽光会後援会●納涼会	8月24日(金) 19時~
会場	陽光保育園
↑開進第三小学校体育館	



# リズム

仲間と心通わせる

陽光会の保育を紹介する新シリーズです。

## 日々成長する子どもたち

6歳をむかえる子どもの育つ力はすごいとそばに感じていました。日々の生活やあそびを通して仲間のなかで自分を表現しながら、時には「できない」と、くじけそうになることもあります。それを丸ごと一人ひとりが捉えて、目には見えない大事なことを見つけていく目の前の子どもたちにも、私自身も、子どもたちと一緒に育ちたいと心動かされてきました。



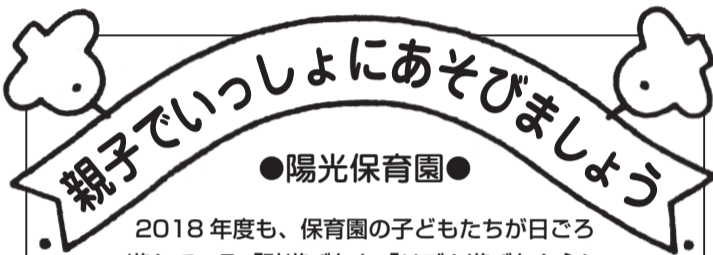
「もしもしカメラよ〜」のリズムにのって。5歳児こそその美しいかたち

1年間の5歳児の生活のなかで子どもたちが育っていく瞬間がいくつもありません。縄とびや竹馬など一人では難しい

ことも、仲間と一緒にだから夢中になって何度も挑戦し、今まで見えなかった友だちの素敵なところを子ども自身が見つけ、自分の素敵って何だろうと自分の心と向き合うようになっていきました。リズムでも身体だけではなく、心も一緒に育っていくことを実感しました。

## 卒園式にむけて

5歳児の仲間との生活も残り3カ月となった1月のある日。子どもたちと卒園式でどんなことをしたいか話し合いをする。と、荒馬踊りやコマ回しと、今まで見てきた憧れの卒園式を思い出しながら次々にやりたいことが語られました。リズムをやりたいと言った子の言葉から、じゃあどんなリズムにしたいかなと、一人ひとりが見通しを持ちながらリズムに向かうようになっていきました。1月に乗馬遠足に行つてからは、リズム



## ●陽光保育園●

2018年度も、保育園の子どもたちが日ごろ遊んでいる「砂遊び」と「リズム遊び」を主に計画しました。これまでに参加されたみなさまからも「家庭ではできないことができてよかった」「とても楽しかった」など、たくさんの感想をいただいています。公園ではできない遊びが体験できますよ。親子で気軽に遊びにきてください。無料です。

場所 陽光保育園(板橋区大谷口上町23-1) ☎3956-1068

時間 午前9時30分~11時(赤ちゃんは10時30分まで)

対象 0歳児~就学前のお子さんと保護者

- \*参加ご希望の方は実施予定日の3日前までににお電話ください。
- \*動きやすい服装で、タオルと着替えをご持参ください。
- \*お天気により内容を変更する場合があります。
- \*0歳のお子さんは、室内にて、赤ちゃん体操・あやし遊びなどでゆったり過ごします。

## 2018年度◆今後の予定

7月17日(火) <small>(終了)</small>	8月21日(火)	9月18日(火)
10月23日(火)	11月20日(火)	12月18日(火)
1月15日(火)	2月19日(火)	3月5日(火)

\*9月は看護師が「健康」の相談をうけ、11月は栄養士が「食」の相談をうける予定です。



## 親子で日々成長

5年前の7月2日、娘は生まれました。予定日より2週間早く生まれ、2600グラムと普通よりも小さく生まれた娘。娘よりも4年早く生まれた息子は今年で小学3年生。息子はとても大きく3600グラムで生まれ、娘の小ささはとても愛らしく、息子とは違った感情がわきました。

息子は成長が早く、1歳になるとすぐ走り回っていました。娘は1歳になっても寝返りするどころか動き回ることもありません。成長には個人差があると言われていたが、ここまで動かない娘を心配し、病院で受診するもマイペースの子なんだねと先生に言われ、検査結果も特に問題がなかった。親の心配をよそに急に歩き出し、走り回り、今までがなんだったのかと家族でホッとしたのを覚えています。

娘は小さく生まれたが、体の小ささとは逆にたくましく、風邪もまったくひかず元気な娘。息子は大きく生まれてきたけど、しゅっちゅう風邪をひく息子。

ただその娘が生まれて1歳を過ぎた冬のことです。初めて高熱が出ました。それはインフルエンザが流行っている冬の時期。ママは仕事が終わらず私が家で看病をしていたときのこと。40℃手前まで熱が出て、看病していると急に娘が痙攣を起しました。初めての看病で初めての痙攣。娘の意識がなく、私は怖くなりママの職場へ電話。震える手で救急に電話。……本当に焦って、何を話したか記憶になく、救急車がきて乗り込むときには娘の意識は戻っていました。安心したのと同時に自分のメンタルの弱さに苛立ちました。

私たち親も、日々勉強で、子供たちから教えてもらうこともたくさんある。うまく支え合つてこそ親子いい関係を築けるのではないかなと思います。これからも2人の成長が楽しみであるのと同時に、子供と一緒に日々成長していこうと思います。

(陽光保育園4歳児クラス・樹里の父 長嶺正也)

# ワン・ツー・スリー のびのび体操 1・2・3

赤ちゃんからリズムへ

東京・陽光保育園 小内康寛

## 第8回 ヨチヨチ歩きをはじめたら…

今回は1歳半くらいの赤ちゃん体操のおさらいです。このころには歩ける子が多いと思いますが、よくみるとフラフラしていませんか？ まだ、感情で動いていることが多いからです。完全に運動が脳コントロール(～したいから～する)になっていないのです。

- ①赤ちゃんの機嫌がよいときを選びます。
- ②脚やおしりのあたりのマッサージを十分にしないと、逃げられてしまいます。マッサージをしているうちに、赤ちゃんの方で「やっもらおうかな」という心の準備ができあがるのです。
- ③全身マッサージをしながら、各部を動かします。
- ④逆さ、回転、宙に浮く感覚(第6回)や、同様の動き、たとえば図のように、赤ちゃんをひざの上にせ、ひざを上下に動かしストンと落としたり、布団を山積みにしてふんわりと投げてあげます。とても喜びます。こうして赤ちゃん体操の集大成をします。

さあ、いよいよリズム体操です。でも、ここで初めて…というわけではありません。赤ちゃんは、生まれたときからリズムをもっているし、横笛する力、赤ちゃんなりの表現力をもっています。ピアノの音や歌声が流れてきたとき、赤ちゃんがモ

## いよいよ赤ちゃん体操の集大成です!

ゴモゴと体を動かします。「あっ、リズムをやっているんだ」と感じる瞬間がたくさんあります。



\*『新婦人しんぶん』2000年11月16日号掲載

でも草競馬やポルカ、四拍子など、馬になりたり、馬の手綱を引いて風を切るような速いリズムが好きになりました。

## リズムを自分たちのものに

そんなとき、ポルカでMくんが「この音はこうだったよね」(この音楽はこんな動き)と自分で動いてみせました。私は「動きながら」この音で合っていると「思うよ」と話し、他の仲間にも聞いてみますが、みんなすっきりしない様子。「ちょっと確認してくるね」と本を見たり、事務所に行った大人に聞いてみると、ピアノの音と動きは合っていました。「この音で合っていたよ」と話すとやっとなり、自信をもってリズムをする子どもたちの姿から、今まではない成長を感じました。以前なら大人の言葉をそのまま受け止めるだけのことが多かったのが、卒園にむけて少しずつ、リズムが自分たちのものになっていく実感がありました。

また、同じ頃に夢中になっていったコマ回しでは、一人ずつ回していくのですが、なかなか一度に全員が回すことは難しく、子ども自身もどうしたら全員が回せるのか、練習しながら考えていました。



1人ずつ順にコマをまわし、最後は全員そろって。「エイエイオー!」

そんなある日、一番にコマを回すKくんが、「エイエイオー!」と仲間の顔を見ながら言ったことをきつ

## 私の終戦(2)

杉英夫



1945(昭和20)年8月、中学2年生だった私は、福岡市外の山の中にいた。市内のお濠に囲まれた西部軍司令部の通信隊に軍属として配属され、敗戦の色濃くなった夏の初めに、米軍の空爆を避けて県内の山に通信隊は籠ったのである。暗号無線係として、大本営、東部軍司令部からの受電、九州各地、海外への発信等に従事した。

その数年前、山本連合艦隊司令長官が視察のために飛んだ機がソロモン諸島上空で米戦闘機群に迎撃され戦死、後継の古賀司令も同様の最期を遂げ、米軍の暗号解読技術の発達によって味方の暗号がすべて解読されていたことが後に判った。通信隊はうかつな発信ができなくなり、太平洋に配置された部隊への連絡網が切れた状態となり、敗戦を早めた一因になったといわれた。

山の中で仕事を失った通信隊は穴の中から出て体育剣道などをして過ごしていたが、ある日全員に招集がかかり、そこで天皇の終戦の勅語を聞いた。ラジオのせい、ピーピーガーガー何を言っているのか判らなかつたが、本職の無線によって内容は判った。

ただちに集合させられた学徒は、隊長の青木中尉から「学徒はすぐに山を下り帰宅せよ」と命令され、全員、荷を背負って山を下り帰宅した。山を下りる途中、いくつかの銃声が鳴っていた。あとで聞いた話では、青木中尉以下数名の将校、下士官が自決されたとのことだった。

青木中尉は、とても優しいハンサムな人で、学徒と輪を組んで語り合ったりして人望があった。あの人も軍人として敗戦の原因が無線隊にもあったと責任をとったのか、戦争は惜しい若者を失ったものだと、今、つくづく思っている。平和な今なら会社の課長さんにでもなって、社員にコンピューターなどの技術を教えていたかもしれない。

太平洋戦争では、軍人230万人、民間人80万人が亡くなっていると聞いた。人生50年、軍人半分25年といわれていた戦争、今は人生80年である。

我々は、決して戦争をするような国にならないよう、平和を守っていかねばならないと思う。

(中野区在住/87歳)